

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2072700723		
法人名	社会福祉法人協立福祉会		
事業所名	高齢者グループホームなのはな		
所在地	東筑摩郡山形村2526番地1		
自己評価作成日	平成22年5月6日	評価結果市町村受理日	平成22年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072700723&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072700723&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年6月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

なのはなの理念に「あきらめない介護の実践」がある。そこには、安心して暮らせる生活、笑顔のある生活、役割のある生活(あなたで番です)、関係性のある生活、個性豊かな生活の5つの生活がある。その中に、目標を持った生活支援、毎日の継続支援が続行されている。平成17年開所以来、6年目のなのはなの生活が繰り広げられている。当初からの方は7名。生活の基盤がほぼ出来ているなのはなの生活は新しいご利用者が入居されても、この7名の方が新しい方を支えてくれる力がある。昨年は、初めてのターミナルをご家族、職員7名と当時のご利用者8名、訪看、隣診療所の連携で支え、最後の看取りに取り組んだ。一番の高齢者であった93歳のご利用者は、回りの大勢の温かい支援により、なのはなで永眠をされた。最後の姿を看取ることが出来た仲間であるご利用者達は、ベッドの回りに集まり、皆で泣いた。同じ住処で暮らす仲間達の大きな力に感銘を受けた時だった。これからもこの力を活かし、なのはなが仲良く暮らしていけるよう支援をしていきたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは閑静な住宅地にあり、近隣には菜園や花畑が望める環境と生活感が得られる場所に設置されている。社会福祉法人協立福祉会に属し、山形協立診療所(通所リハビリテーション・訪問看護ステーション併設)に隣接し、医療連携体制による日常の健康管理から終末期の看取り支援が行われ、ご家族の介護負担軽減につながり入居者ご家族の安心と安定した生活が確保されている。管理者は経験と専門性を活かし職員と共にホーム独自の理念を作りあげ、理念の実現に取り組まれている。また区長さんの配慮により地域の方々へホーム理解が浸透し、入居者が地域で暮らし続けるための基盤作りが確立しつつある。地域の方々の見守りと職員の笑顔の支援を得ながら、入居者は日常の生活場面の中で役割を持って、明るく、伸び伸びと過されている。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あきらめない介護の実践」を理念として、管理者と職員は、理念を共有し、実践につなげている。日々、努力している。	ホーム独自の理念「入居者の生き方を受けとめ人生の先輩として尊敬し、あきらめずにそのひとらしさが出せる生活をめざして介護に取組みます」を職員全員で話し合いつくりあげられている。玄関や事務室に掲示し、周知して実務に当たられている。	今後更に地域密着型サービスとしての意義や役割について職員全員で話し合わせ理念に組み入れ共有を図り、実践につなげていかれるよう期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日の散歩時等に隣近所の方々と会い交わし、交流することも多い。地域の方のボランティアレクも1~2ヶ月に1回、行なわれている。保育園、中学校との交流もある。	区長さんより回覧板を活用してグループホームなのはなのご紹介を頂いたことで散歩時等、地域の方々より温かい声掛けを頂き交流が深まりつつあることを伺った。なおボランティアレクや保育園・中学校との交流も行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩等の外出に出る機会には、近隣の方との交流も毎回あり、声を掛けてくれる姿が多い。なじみの関係にもなり、なのはなという施設への理解も示してくれている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所より6年目。「地域密着型～」が成立してから(平成18年)5年目のなのはなであるが、今までの運営会議を通して、様々な情報の交換が出来、それがサービスの向上につながっている。	年2回の運営推進会議を開催し、入居者の状況報告・ホームの活動状況報告・防災訓練について(近隣との協力体制に向けて)等の話し合いが行われ、サービスの向上に努められている。	運営推進会議は、地域密着型サービスとしての役割を果たしていくために、地域の方々の助言や支援を得るための貴重な場である。事業所活動について報告するほか、地域交流促進の場となるよう工夫をしながら、2ヶ月に1回の開催を期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例が起きた時には、村担当者に詳細を話し、相談に乗ってもらったりしている。	ホーム内で困難事例が発生した折等、担当職員に相談掛けをして、課題解決に向けスムーズな支援が得られている。	市町村担当者との連携をして、ホーム機能(認知症の理解やかかわり方についての相談対応や予防教室等)の地域への還元を図られる取り組みに期待する。

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の外の花の水遣り、畑の水遣り等の作業他、自由に日々の生活の中で実践を行なっている。夜間以外は玄関等の施錠をせずに暮らしている。	職員は日頃から入居者一人ひとりの状況把握に努めており、様子をみながら、さりげない声掛けや寄り添いのケアが行なわれていた。入居者は鼻歌を歌いながら、伸び伸びとすごされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体はもちろん、言葉での暴力についても話し合い、職員間で協力し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この内容については、職員間での話し合いはない。管理者は、個別で知識は得ているので、今後の勉強会に取り入れていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会、地域運営会議への利用者家族の参加、そして家族来訪時の職員の意見交換の時間配慮等により、それらで得られた内容を運営に反映している。	ホーム玄関に設置されている意見箱や年2回の家族会と運営推進会議、またご家族訪問時に意見や要望を聞く機会をつくられている。なお入居者の思いは日常のケアの中で把握に努めると共に、得られた意見や要望は部会で話し合い反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部会やミニ部会の内容を上の主任会、職代会へ持ち上げたりすることで、職員の意見交換の反映を行なっている。	月1回の部会や毎日昼に行われているミニ部会、個別面談等により、向上心が持てる職場環境・条件等について具体的に配慮がされている。職員面談の折に人間関係が良好で話しやすい体制にあることを伺った。	

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今までにも労働時間等について、様々な意見交換をしてきた。職場環境・条件についても改良を重ねてきた。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいる。同じ法人のグループホームとの交流が主。法人内で3つのグループホームの合同家族会を主催している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心してサービスを利用できるように、サービスをいきなり開始するという形でなく、「通所デイ」という形を取り入れている。2、3日通ってもらい、様子を見ながら対応を考えている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームという施設のあり方をしっかりと説明し、安心して入居していただけるよう、関係作りに努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりの生活者として、支援に当たっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なのはなでの一方的な支援にならないよう、家族と共に協力連携、相談しながら本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が引き続き続行できるように、この施設自体も親しみのある入りやすい雰囲気となるよう、いつも笑顔の絶えない職員の対応に努めている。入居以前の環境との関係も引き続き、続行できるように、本人の意思や思いがわかれば、一緒にその場所に同行することもある。	地域の方々が活用されている隣接のデイケアの方々と交流(運動会やハーモニカ演奏会等)を図り馴染みの関係作りに取り組まれている。入居者の生活暦より人間関係や社会関係を把握し、入居者と話し合い意向に副って行きたいところへの支援が行なわれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間作りへの援助的役割も行い、関係作りを大切にしている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。何らかの都合等で他施設等に入居されたりしても、その後の状態や様子を家族や本人と関係を持ち、同時に仲のよかった、なのはなご利用者との関係が絶えないように応援している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者と話しをすることにより希望・意向の把握に努めている。家族にも得た情報を伝え、ご利用者の思いを大切に、方向性を考えている。	日常のケアの中より入居者の思いや意向をキャッチして、入居者本意の生き方にそった支援に努められている。	

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会等で個々の利用者の生活の課題、ケアのあり方についても話し合い、家族の来訪時は、生活の様子を伝え、意見交換をしている。家族からの助言も大切に、計画書に反映している。	入居者1人に2人の職員が担当して日常生活の中より入居者の意向や思いを把握すると共に、ご家族の助言を組み入れ職員全員で話し合い入居者の視点に立った介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	部会、ミニ部会等で話し合い、意見交換を行い、情報の共有を行い、なのはな生活の中に実践し、活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者において、突然家族が遠方へ移転という形になることもある。同県内において知人、親戚等が所在しない場合には別の形で再契約を交わし、本人が安心して慣れた場所で生活の続行を維持出来るように支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山形村の自然に囲まれながら毎日の散歩を楽しんだり、近くにある図書館への出入り等もある。他、買物等も随時一緒に行っている。		

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2010年4月より、診療所から月2回の往診が開始。ゆっくりと居室にて主治医と話をしながらの受診を行なっている。	入所時に入居者、ご家族と話し合い、受診する医療機関を決めている。現在は全員が隣接する診療所の主治医による月2回の往診を受けられている。なお週1回の訪問看護体制による支援もあり入居者、ご家族の安心と安全に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護へ相談、支援をお願いし、隣りの診療所への受診等の連携、判断を行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系列の病院ということもあり、連携、情報交換、相談もしやすく、病院関係者との関係作りも柔軟に行なわれている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なのはなご利用者の家族には、早い段階で話し合いが行なわれている。昨年6月に初めてのターミナルが行なわれた。	入居者の状態変化に伴い早期からご家族と話し合いを行なうと共に、隣接診療所との連携体制により入居者、ご家族は安心と納得した最期が迎えられたことを伺った。	今後更に重度化した場合における(看取り)指針や看取り介護についての同意書の作成が望まれる。なお事業所の力量や体制に応じた支援方法をチームで話しあわれると共に、看取りに向け職員の更なる研鑽に期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ご利用者に今まで起こってきた急変の状況等については伝え、対応の仕方等の説明を行う。季節ごとに起こりうる可能性についても説明し、実践力を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は毎年、行なっている。地域に向けて協力体制を築いていく形をようやく掴み始めている。	年2回の避難訓練が行われている。(避難時間15分と確認し状況について話し合われ、次回への課題とされている)夜間想定訓練も行われている。咄嗟の事態に備え今年度は3ヶ月に1回の頻度での避難訓練を実施予定と伺った。	避難訓練の結果、職員だけの誘導の限界を確認されている。今後地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を定期的実施されるよう期待する。なお災害時の非常食料と備品の準備が望まれる。

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という病気を背負うご利用者のアンバランスな面を一人ひとりのこれまでの人生を尊重し、尊厳をもって対応していく理念をなのはなでは掲げ、言葉掛けや対応に日々、努力している。	職員は日常的に明るく笑顔を持って支援に当たり、入居者が安心して、笑顔を持って、役割のある、豊かなコミュニケーション、個性豊かな生活を目標とされており、入居者一人ひとりが役割を持って明るく伸び伸びと過されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたいこと、やれることを見つけ、希望に沿う支援が出来る様、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調の確認もしながら、ご利用者の生活支援に当たっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年々低下してくる認知症の症状の中で、整容は確実に表に現れてきているが、そっと支援することで保持していく。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理を作ったり、メニューを考案しあったりする。好みも把握し、量の加減も栄養面で考えながら、作っている、片付けも開所以来、ずっと継続されて一緒に行なわれている。	メニューや食材について話し合い入居者と共に調理をされている。訪問時には多種類の食材を用いて天ぷらや和え物が作られ美味しく食されていた。「この食事は何時も美味しい」と完食し、満足気であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。一人ひとりの病気や栄養バランス等についても配慮し、支援している。		

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行なっている。ホールでの半介助の方や、居室での口腔の方への声がけ等、週1回のポリデント施行。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンに合わせて支援を行なっている。	ホームでは多くのトイレが設置されている。各トイレに入居者の名前を明記して、混乱することなく利用し易いように配慮されている。職員は入居者の排泄パターンを把握されており、さり気ない支援が行なわれていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりのご利用者の体調の確認をし、体操、散歩、食材料理、そして整腸薬の工夫等の支援を行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、一日おきで体調の確認をしながら、入浴を楽しんでもらっている。日により続けて入浴を楽しみたい方は、体調の確認をし、入ってもらっている。	通常1日おきの入浴が行なわれていることを伺った。しかしお風呂好きな方には希望に副って毎日入浴されている方もいることをお聞きした。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活状況を記録、情報により確認し、昼休みの静かな休息時間の支援をしたり、夜の穏かな就寝への配慮を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、一人ひとりに合った好ましいレクの提案、全体で関係作りができる楽しみのあるレク等や嗜好の楽しみについても情報を大切にしている。職員間で連携し、対応することで、ご利用者の気分転換の支援に力を注いでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のデイケアから土、日に大小2台の車を毎週借りている。気分転換も兼ねながら、ドライブに出かけたり、食事に出かけたり、同系列のグループホームに出かけたりしている。	ホーム周辺に比較的交通量が少ない散歩道があり日常的に散歩に出かけ地域の方々より声掛けを頂き交流の場となっている。なお車でバラ園や外食、同一母体系列のグループホームへの交流訪問が行なわれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事は全員していない。買物については、家族から預かっているお金について、一人ひとりの希望や力にあわせて話しをし、相談しながら好みのものを購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	関係作りがしやすいように居場所の工夫や配慮をし、季節感のある花や木々を玄関の外、室内、サンルームに飾り、ホールへの柔らかな日の光と木々等が見える空間を演出。浴室の窓からは笹の木々が見られ、柔らかな日差しが浴室に降り注ぐ様子が見られる。	玄関外には季節感が味わえる花木が植えられると共に、花好きな入居者があちこちに置かれた花瓶の水替えをいそいそと楽しそうに行っていた。浴室からは中庭に植えられた竹林が望め入浴が楽しめる工夫がされている。また回廊には入居者の手づくり作品や職業体験にて訪問された中学生の写真やメッセージが飾られ温もり感が得られるよう配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、サンルーム、入浴等で、気の合う仲間の関係作りがしやすいように居場所の工夫や配慮をしている。		

外部評価結果(高齢者グループホームなのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好ましい生活感のある空間を大切にしている。	居室には一人ひとりの思い出の品(趣味の作品、家族写真、テレビ、タンス、炬燵等)が持ち込まれている。なお畳の部屋やフローリングの部屋等選択もでき居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが不明になりやすい方には名前を見やすいところに貼り、使用しやすいトイレの配慮をする。居室扉近くには個々のご利用者の力を活かした作品を飾ったり、表札が掛けられている。極力、居場所が不明にならぬように配慮する。		